

クリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30

TEL 088-821-2052

FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>

電子メール shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp



四国山の日

No.1147 2015年10月号

請負事業者等連絡協議会を開催

9月16日に高知県安芸市民会館において安芸森林管理署管内
請負事業者等連絡協議会を開催しました。 【詳細は2頁】





請負事業体等連絡協議会（石橋署長挨拶）



九月一六日に高知県安芸 准監督署三名、四国森林管
市民会館において、請負事 理局担当者二名、当署職員
業体等五九名、安芸労働基 三〇名の計九四名が参加

し、請負事業体等
連絡協議会を開催
しました。
本協議会は、今
後、事業の最盛期
を迎えるに当り、
関係事業体及び関
係機関等が連携を
密にして、法令等
の変更やこれに伴
う労働災害防止対

策等を全員が共有し、徹底
することに、労働災害
の未然防止を図ることを
目的として開催したもので
す。
開会にあたり、当署石橋
署長から「林業は、自然環
境に影響されるため、他の
産業と比較して非常に厳し
い作業環境にあり、安全管
理体制の整備や各作業者の
安全作業の遵守が重要。九
月に入り事業の最盛期を迎
えてさらに忙しくなるが、
急がば回れの精神で安全第
一で作業に当たっていただ
きたい。」との挨拶があり
ました。
その後、安芸労働基準監
督署の松岡監督・安衛課長
より「労働災害防止のため
に「リスクアセスメントを
進めよう」と題して安全
講話がありました。リスク
アセスメントとは、作業が
どれくらい危険かをランク
付けし事前に評価する手順
のことです。災害の防止対
策として有効といわれてお
り、林業においてもリスク
アセスメントの導入が重要
な課題となっていることや
ポイント等についても分か
り易く説明がありました。
引き続き安芸労働基準監
督署矢野署長からは、「足
場からの墜落防止のための
法改正について」、「高知県
内及び安芸労働基準監督署
管内での労働災害の推移」、

「斜面崩壊による労働災害
の防止対策に関するガイド
ラインについて」、「交通労
働災害の防止について」等
の講話がありました。
続いて、当森林管理局吉
良企画官（安全衛生担当）
から、近年の四国局管内に
おける請負事業の原因別、
作業別等災害発生状況、ま
た、平成二六年度に発生し

た労働災害の概要・原因に

安全協議会でリスクアセス

業務管理官からの挨拶

ついての説明後、「月別発

参加した請負事業者等か

メントの勉強会を行うなど

全対策の取組を根気強く引

生件数では九月〜一〇月が

らは、多くの現場作業職員

具体的な防止対策の取組を

き続き実施していくことが

最も多く、これらを参考に

の出席をいただいたところ

進めているところです。今

重要と参加者全員で確認す

類似災害の具体的で効果的

ですが、机で資料に向かっ

回の協議会を終え、改めて

ることができました。

な安全対策を実施してほし

ての長時間の講習会は慣れ

い。」との話がありました。

ていないにもかかわらず、

最後に、当署竹倉次長か

うなずいたり、メモを取り

ら「リスクアセスメントを

ながら熱心に聞く姿が見ら

実施している林業関係請負

れ、安全に対する関心の高

事業者等はまだまだ少数で

さを感じ取ることができま

あり、請負事業者への浸透

した。

に向けて、各事業者の代表

当署では、今年度は重大

者や責任者が中心となり、

災害の撲滅はもとより、労

職場全体でリスクアセスメ

働災害の未然防止を図るこ

ントの取組を進めてほし

とを基本として、様々な取

い。」との挨拶で閉会しま

組を行う中で、例えば健康

ることを確認す

小・中学校の先生方への 「森林木工教室」を開催



八月二一日、当森林管

う先生方から森林環境分

理局大会議室において、

野の基礎的知識の修得の

高知市教育研究会環境教

機会提供を依頼され開催

育部会に所属する小中学校

したものです。

の先生、三五名を対象に「森

午前中は、環境教育部

林木工教室」を開催しま

会主催の講演会が開かれ、

した。

(株)NHKエンタープラ

本会は、環境教育を担

イズエグゼクティブ・プロ

デューサー村田真一氏によ

る「いかに生物多様性の大

切さを伝えるか」と題する

講演があり、当局職員も聴

講しました。

午後からは、「森林木工

教室」を行いました。

はじめに、当局業務管理

官より、四国の国有林概要



や近年の森林教室の内容、海外の森林状況、シカ害の概要、さらに、本日の木工作品作りを通して森林の大切さを実感して頂き、子ども達に森林の大切さを伝えて頂きたい等お話がありました。



糸電話で実験中

次に自然再生担当企画官から「四国の国有林におけるニホンジカ被害対策の概要」と題して現状・取組み・対策・課題等について森林教室を行いました。

木工教室は「ジージーセミ作り」と「竹製プランター作り」の二班に別れ、当課職員及び森林ボランティアの方々の協力を得て実施しました。

セミ作りは、本体を予め作っておき羽・頭を作って貼付けると仕上がるようにしました。その後、三班に別れ「糸電話」を体験した。当局担当者からは、森

て、音を作る、音を伝える、音を大きくするなどの「セミはどうして鳴くのか」を説明しました。プランター作りは、最初に竹の特性や「竹の物差し」はどうして竹を使って



木工教室は「ジージーセミ作り」と「竹製プランター作り」の二班に別れ、当課職員及び森林ボランティアの方々の協力を得て実施しました。

セミ作りは、本体を予め作っておき羽・頭を作って貼付けると仕上がるようにしました。その後、三班に別れ「糸電話」を体験した。当局担当者からは、森

今年、夏休みの森林教室等の開催について年度始めに公募方式にしたところ多くの児童クラブ等から依頼がありました。抽選により、高知市内の小学校放課後児童クラブや各ふれあい

センターなど一四カ所に、小学生及び保護者約六〇〇名を対象に七月二二日から八月二八日までの約一ヶ月間、森林環境教育として、森林教室と木工教室を実施しました。

児童クラブでの森林教室



森林にもっと関心を持つてもらえるようにと、児童クラブでは、三択による木の名前当てクイズを行い、ふれあいセンターでは、森林の働き・大切さ・恵みをテーマにパネルを使用して説明しました。クイズでは、子ども達が正解する度に大

喜びしていた様子から、各物車」を完成させた児童は、自いくつかの木の名前を覚えてもらったのではないかと。まっすぐ速く進む車、と思います。また、植物への関心も高く、正解の写真を見せると、「もっと見せて」と前へ寄ってきてじつくり葉や花を見ていく子ども達は大盛り上がりでした。その他に、「飛んでる昆虫」や「昆虫標本」のカベ掛けなど夏休みの宿題らしい作品ができました。

その後、森林からの「おくりもの」である、小枝や竹を使って木工教室を実施しました。児童クラブは、先と低学年の児童が主体なので事前に各パーツに加工したものを使いました。「動物車」を完成させた児童は、友達と競争し遊んでいました。まっすぐ速く進む車、と思います。また、植物への関心も高く、正解の写真を見せると、「もっと見せて」と前へ寄ってきてじつくり葉や花を見ていく子ども達は大盛り上がりでした。その他に、「飛んでる昆虫」や「昆虫標本」のカベ掛けなど夏休みの宿題らしい作品ができました。

カベ掛けを製作中



でいました。

この夏休み期間中も、たくさんの児童、先生、保護者の方に森林教室等を実施しました。少しでも森林・林業に興味を持って頂き、山を好きになつてもらえたらと考えています。

また、高知市教育委員会が主催した各ふれあいセンターの「親子夏休み木工教室」では、のこぎりや、ナイフを使い小枝等を加工して「フクロウのエンピツ立て」や「動物車」などを製作し、特に多くの子どもがのこぎりを使用するのは初めてということ、木や竹を切るのに悪戦苦闘していました。例年、木工教室の作品を、夏休みの宿題の自由研究課題としている小学生が多く、どの子も真剣に楽しんで作品づくりに取り組んで利用されています。

各地のたより



「滑床溪谷の樹木 名板の付け替え」 〈ふれあい推進センター〉

足摺宇和海国立公園特別

地域である愛媛県宇和島市

滑床溪谷の万年橋から

雪輪ゆきわの滝までの遊歩道

沿いに設置してある樹

木名板が老朽化し、文

字が読めない状態と

なっていたことから、

「滑床を愛する会」の協

力により、九月四日に、

樹木名板の付け替え作

業を行いました。

当日は、地元、宇和島ケー

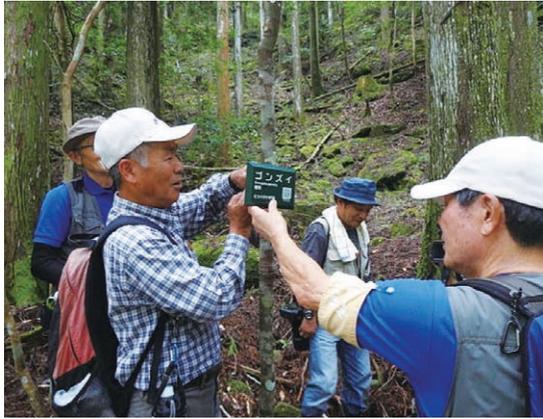
ブルテレビもその様子を取

材に来ていました。

付け替えが済んで真新し

い樹木名板になったこと

で、滑床溪谷を訪れる人達



樹木名板の付け替えの様子

に、樹木の名前を一つでも
覚えて帰ってもらえればと

考えています。

「西土佐中生徒が職場体 験の事前学習と三本杭 登山を体験」 〈ふれあい推進センター〉

高知県四万十市立西土佐

中学校では、二年生が三年

生の時に実施する職場体験

学習の事前学習として「職

業人に聞こう」と題し、西

土佐地区のさまざまな職業

について学習しています。

それぞれの職場の方に来て

もらい仕事の内容などを学

んだ上で職場体験を依頼す

る事業所を選び、進路選択
に生かして行きたいという

ことで、当センターにも要

請がありました。

一〇月二日に、所長が中

学校に出向き、生徒から事

前に出された質問に答える

とともに、当センターの仕

事の内容について説明しま

した。

一〇月六日には、秋晴れ

の中、生徒二九名と教諭四

名の総勢三三名を案内して

三本杭に登りました。

生徒は、職員から登山道

沿いの樹木の名前や特徴、

シカの食害防止用のネット

設置の状況などの説明を受

けながら約二時間かけて三
本杭の頂上を目指しまし

た。

途中の八面山やっつらやまで休憩し、

これから行く三本杭山頂

はあそこだと説明すると、

「えー、遠い、疲れた。」と

言う生徒もいました。

三本杭の山頂に到着し、

歩いてきた八面山は、あそ

こですと説明すると、遙か

に遠くに見えるその山に驚

いていました。

昼食後は、三本杭の名前

の由来や山頂周辺のニホン

ジカの食害、貴重なブナ天

然林について説明しました。

ニホンジカの食害につい

て、裸山になっていた山頂 ました。

やたるみの平成一七年頃の 後日、生徒達より、「以

写真を見せ、これを再生さ 前説明してもらっていたシ

せるために、平成一九年か カの食害のことを、実際の

らミヤコザサの移植や周囲 場所へ行つて見るとその被

へのネット設置を行った結 害がどれだけひどいもの

果、ミヤコザサ等の植生が だったのかわかりました。

回復している状況を説明し ても、ふれあいセンター

の皆さんやボランティア

アで参加して下さい

一般の方々の活躍が森

林を再生させているこ

とがわかりました。そ

して、三本杭登山体験

で今まで知らなかった

ことをたくさん知りま

した。どうもありがと

うございました。」な

どの感想文をいただきました

た。

今回の登山体験等を通し

て、森林等の自然の良さや

大切さを感じてもらえたと

考えています。



松野西小・森林教室の様子



で種子を散布する方法につ

いて学習しました。

風を利用し回転しながら

運ばれる種子もあれば、風

に乗って運ばれる種子もあ

ります。甘い果実で覆われ

た種子は、動物に食べられ

て、フンと一緒に散布され

ます。また、「リス」や「ネ

ズミ」などの食物を貯蔵す

る習性を持った動物を利用

して、種子の移動と貯蔵、

食べ残しを期待する方法も

あります。種子のカギヤト

ゲなどにより通過する動物

の毛や皮に付着して散布さ

れるものもあり、更に、水

に浮いて流れて、散布する



三本杭で自然再生について説明

小筑紫小・森林教室の様子



種子もあります。さやがはじけたり、ドングリのように転がって散布する植物など、植物がさまざまな方法で種子を散布することを紹介しました。

その後、「カエデ」「テイカカズラ」「アルソミトラ」

(東南アジア産のウリ科の

植物)の風や翼を使って飛ぶ種子が、実際にどのような風に飛ぶかを実物を使って観察しました。

大きな翼を持つ種子「アルソミトラ」がグライダーのように飛ぶ様子に「オー」と驚いていました。

次に、「ニワウルシ」「ラワン」「マツ」「アルソミトラ」の種子の模型をスチレンシートや色紙等を使って作りました。教室や中庭、体育館で、ラワンの種子模型やアルソミトラの種子模型を飛ばすと、くるくると回りながら落ちてくる様子

みんなまで飛ばしていただきました。

児童から終わりの挨拶の中で、草や木が種をまく方法に、『風を利用する』、『動物を利用する』、『水を利用する』、『自分の力で飛ばす』という大きく分けて四つの方法があることがわかりました。また、東南アジアには、高さ七〇メートルもの木があり、大きな種が高いところから落ちていられる様子も観察しました。

がとうございました。』と挨拶がありました。

今回の学習等を通じて、児童の草や木、自然に対する興味への入り口となってくれることを期待しています。

森林ボランティア活動の実施

〓地元NPO団体等と登山道整備〓

〓徳島森林管理署〓

られる三嶺の登山道の整備を実施しました。

この森林ボランティア活動を実施することになったのは、NPO団体の方から登山道の洗掘が著しいとの情報をいただいたことがきっかけでした。

この登山道は、雨水により洗掘され歩きにくくなっており、登山道はずれて林内を歩く登山者が増えたため、林内の希少植物が踏み荒らされていました。

九月三〇日、当署管内の三嶺国有林で地元NPO団体「三嶺の自然を守る会」六名、徳島県職員七名とともに徳島県の名峰として知

当日は、NPO団体代表による挨拶の後、当署職員から注意事項を説明し目的地へ向かいました。

がらもその笑顔に充

ビンゴゲーム大盛況

実感で満たされまし
た。

また、参加者から
は緑の募金も寄せら
れ「かがわ水と緑の
財団」に寄付しまし
た。

この他に、クイズ
ラリーにも出題者と
しても参加、森林が二酸化

炭素を吸収し、地球温暖化
防止に貢献していることや
「木づかい」の大切さを大い
にアピールできたイベント
となりました。



**森林ボランティア活動
(二ノ谷山八〇林班)
〈嶺北森林管理署〉**

九月二七日、「高松中央
ロータリークラブ」及び「ふ
るさとの森を育む会」の皆
さんと、遊々の森（高知県

土佐町との協定を締結）「い
なむら体験の森」で毎年の
恒例行事となっている、下
草刈りのボランティア活動
を実施しました。

当地は「ふるさとの森を
育む会」が平成一八年から
サクラやツツジ等の植樹活
動をしている所です。

前日からの雨も上がり、
香川県高松市から参加され
た六八名の皆さんに背の高
さまで伸びたススキなどの
下草刈りの体験をして頂き
ました。普段鎌を握る機会
が少なく、不慣れなせいか
なかなか作業が進まず苦勞
していました。また、傾斜
地の方もあり、滑って尻餅
をついたりしていましたが、
全員ケガも無く、無事に作
業を終了しました。昼食時
に、「ふるさとの森を育む会」
の方から大鍋の「猪鍋」が
振る舞われ、「珍しくておい
しい」と、大変よろこんで
頂きました。年に一度の活
動ですが学校の先生から弁
護士の方まで多種多様な職
種の人が花や樹木等にふれ
あい、興味を持って頂くこ
とで、森林が持つ様々な機
能を全身で感じてもらう絶
好のイベントでもあるので
今後も長く続けて行きたい
と考えています。



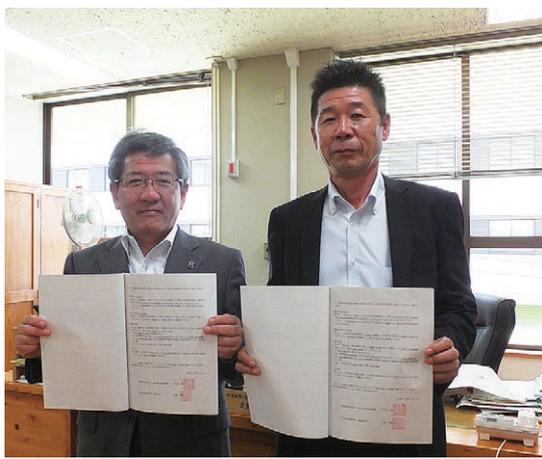
ボランティアによる下草刈り



森林ボランティア参加者の皆様

「大豊町立川地域の
森林整備推進に関する
協定」を締結!!
〈嶺北森林管理署〉

九月四日、当署管内の高知県大豊町立川に所在する仁尾ヶ内山国有林二九〇ha



協定締結後
右側…川久保嶺北署長
左側…大野高知県林業振興・環境部長

と高知県が管理している県森林整備を適切かつ効率的に行造林地三二三haは、高知県と効率的な作業道作設を核とした森林共同施業団地を設定するための「大豊町立川地域の森林整備推進に関する協定」を締結しました。

森林整備を適切かつ効率的に行い、森林資源の循環利用を行う森林共同施業団地（以下「施業団地」という。）を設定しています。

当施業団地は、水源の涵養機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林、土地に関する災害の防止及び土壌の保全機能、快適な環境の形成の機能又は保健文化機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林（山地災害防止タイプ、水源涵養タイプ）に区分されており、森林整備に当たっては、浸透・保水能力の高い森林土壌の維持及び根系、下層植生の良好な発達が確保され、林木の成長が旺盛な森林に誘導するための森林整備を推進します。

具体的には、長伐期施業、複層林施業の推進や天然生広葉樹を保残する伐採方法の採用による林床の安定化を目指した間伐を計画的に実施することとし、平成二七〜三〇年度までに間伐一四七ha、素材搬出一八、九〇〇m³、作業道一一、四六〇m新設を年次計画に沿って着実に実施することとしています。

維持管理を行うなど、相互利用が可能となるよう配慮することとしています。

今後も、当署管内で、民有林との間で森林施業の一体化により効率的な森林整備ができるよう、民有林関係者と調整、協力しながら、取り組んでいきたいと考えています。

この協定では、大豊町立川地区の森林の公益的機能の高度発揮と資源の循環利用を図るため、森林整備の目標、森林整備の方法、路網等の施設の設置及び維持管理に関する事項などを定め、間伐等の

森林、土地に関する災害の防止及び土壌の保全機能、快適な環境の形成の機能又は保健文化機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林（山地災害防止タイプ、水源涵養タイプ）に区分されており、森林整備に当たっては、浸透・保水能力の高い森林土壌の維持及び根系、下層植生の良好な発達が確保され、林木の成長が旺盛な森林に誘導するための森林整備を推進します。

具体的には、長伐期施業、複層林施業の推進や天然生広葉樹を保残する伐採方法の採用による林床の安定化を目指した間伐を計画的に実施することとし、平成二七〜三〇年度までに間伐一四七ha、素材搬出一八、九〇〇m³、作業道一一、四六〇m新設を年次計画に沿って着実に実施することとしています。

作業道等の設置・利用・





消防防災ヘリ（りょうま）による救助訓練

定し、迅速かつ安全・有効な救助活動を実施するものです。訓練は、登山者二名が遭難事故に遭い、うち一名が負傷し行動不能となり、

ヘリコプターへの出動要請、ピックアップ場所の確保と負傷者の搬送、消防防災ヘリコプターへの救助、など現地における一連の救助方法等について、実践を通じ全員が手順などを確認しました。

午後、消防防災ヘリコプターが天候不良等のため運航できない場合を想定し、白髪山避難小屋直登コースにおいて、ストレッチャーにバックアップロープを取付け負傷者を搬送下山する救助活動及び背負い

三嶺系白髪山周辺で
山岳救助訓練の実施
〈高知中部森林管理署〉

九月三〇日、白髪山避難小屋（標高一七〇〇m）及び白髪山避難小屋直登コースにおいて香美市消防本部、高知県消防防災航空隊、

この訓練の目標は、近年の全国的な登山者の増加により、様々な山岳事故が発生しているため実際の登山ルート等での人命救助を想定し、迅速に

香美警察署、高知県警察機動隊及び当署職員の、総勢三七名が参加し、「山岳救助訓練」が実施されました。同行者が消防本部へ救助要請したとの想定で実施されました。



ストレッチャーによる救助訓練（急傾斜降下）

これから紅葉シーズンに入り当署管内の様々な登山ルートを多くの登山者が利用することから、今回の訓練を活かし、香美市消防本部・高知県警察とは連携を密にし、登山者等の安全確保に役立てていきたいと考えています。